

新グループホーム建設の取り組み（2022年度）

①経過

2021年5月建設委員会を立ち上げ、6月の理事会、評議員会にて新グループホーム建設を確認。9月「京丹後市にどんな障害のある人も暮らすことができるグループホームをつくる会」が設立され、資金づくりの取り組みが始まりました。

②今年度の取り組み

（建設委員会）

6月国庫補助金申請をしました。

12月新グループホーム建設予定地周辺の舗装工事の要望書を京丹後市に提出しました。

（地域づくりと資金づくり）

新しいグループホーム建設は、地域の中で地域づくり運動としても広がってきています。共同作業所時代から地域の人と一緒にやってきた「地域との共同」の理念を大切に、9月つくる会と共催で、きょうされんが作成した東日本大震災をテーマにした映画「星に語りて」の上映会を開催。手作りの新ホームの模型を展示し、来場者の方々にグループホーム建設について資金づくりの協力をお願いしました。

10月は3年ぶりに『ふれあいフェスタ2022』を開催し、仲間の元気な姿を地域のみなさんにみてもらい、新グループホーム建設についても「地域の課題として一緒に考えて、一緒に作ってください」と訴え、新グループホーム建設の運動に弾みをつけました。

3月は四つ葉ハウスの「はるかぜ展」と合わせて、ミニバザーを開催。職員の資金づくりも少し進みました。

重度の仲間が「私たちの暮らしの場・グループホームを一緒に作ってほしいです」とそれぞれ恩師に手紙を出しました。手紙を受け取った先生方は、仲間の元気な笑顔に心を動かされ「応援するよ!」と寄付を持って会いに来てくださいました。「仲間の笑顔が輝いているのは、こうして毎日通える場所があり、そこに仲間がいるからだ」という先生の言葉で私たちの日々の実践が仲間の生きる力につながっていると確信しました。

毎月の一斉行動は、各施設で仲間と職員がチームになり地域の事業所を回り、募金箱の設置の依頼や募金箱の交換をしました。京丹後市内のコンビニやスーパーなど多数の事業所に協力をしていただき募金箱という形で支援の輪が広がってきました。仲間の活動が、地域の方の心を動かすことを実感しました。また、あおぞら会を中心に、寄付つきの煎餅や授産製品を販売しました。

③成果

仲間の人たちが、地域に出てこの資金づくり運動を引っ張っています。地域の煎餅屋さんとながかり寄付金付きの煎餅販売。スマホを使って知り合いに50袋以上販売した仲間もいます。また、自分たちの授産製品にも寄付金付き製品を設定し、販売会や物品販売などで地域に広げています。あおぞら会会長は、つくる会の総会で「とものかいのぶっぴんはんばいには、まいかい、きふつきしょうひんをだしています。いっかいはんばいで、3~4まんえんをつくるかいににゅうきんしています。もくひょう100まんえんをたっせいしたので、200まんえんにへんこうしました。これからもおうえんよろしくおねがいします」と発言されました。自分たちの願いを実現するために地域の人と一緒に活動している姿は、みんなに力をくれました。

団体名	目標金額	到達金額	活動内容
あおぞら会	2,000,000	1,617,808	寄付つき物品販売（煎餅、授産製品） 寄付
家族会	15,000,000	7,617,000	毎月の焼きそば販売、倉庫市、積立 会員拡大
友の会	15,000,000	10,000,000	毎月の資源回収、物品販売、会員拡大
職員	14,000,000	5,428,930	ミニバザー、積立、会員拡大
法人関係者	6,000,000	5,507,000	会員拡大、寄付

④課題

今回の新グループホームが完成すると6名の仲間が入居できます。ショート利用は3名です。しかし、グループホームの入居を希望している仲間は、たくさんいます。京丹後市内の障害者グループホームの情勢は、この1～3年の間に他法人のグループホーム9棟が開所予定です。生活の場の安定という視点で見るとどのホームを利用しても安定した生活が保障されます。しかし、「自分の住み慣れた地域で暮らしたい」「自分の好きな仲間と暮らしたい」という仲間の願いに応えられるのかを考える必要があります。仲間一人ひとりの生きがいは保障できるのか？仲間が幸せだと感じられる暮らしが保障できるのか？という視点を大事に考えていきたいです。あみの福祉会に通いたいと願っている仲間の願いに応えるために、次のグループホーム建設（2027年度開所予定）の計画も早急に検討する必要があります。